

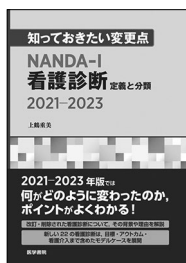
Books of the Month

今月の本

知っておきたい変更点 NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023

著：上鶴重美
発行：医学書院
定価：2200 円（本体 2000 円＋税 10%）

『NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021-2023』での変更点のうち、おさえておきたい項目をその背景を含めて原著編者・日本語版訳者が詳説。看護診断の活用に役立つ看護実践の3部構造モデル、臨床推論モデルを紹介しているほか、22の新診断についてはモデルケースを用いて目標・アウトカム・看護介入までを含んだ展開例を提示している。



看護のための教育学 第2版

編著：中井俊樹、小林忠資
発行：医学書院
定価：2530 円（本体 2300 円＋税 10%）

看護学生を対象とした教育学のテキストの改訂版。教育をめぐる状況の変化や著者らの実践経験をふまえて、「リフレクションを促す技法」の章を新たに加えた。さらに「コーチングの技法」をまとめ直し、「学習の原理」を大幅に改編。学生が看護師となり、現場で教育に携わるようになったときにも役立つことをめざしている。



ケアの気づき メイヤロフの「ケア論」がひらく世界

著：西田絵美
発行：ゆみる出版
定価：1870 円（本体 1700 円＋税 10%）

看護におけるケアリングとは何か。ケアリング教育の欠落が看護師のアイデンティティに大きくかわるとする著者が、メイヤロフとノディングズの著作を読み解き、ケアリングの本質を見だし、ケアリング教育の可能性を探る。看護の中核とされる「ケアリング」の意味と価値の気づきにつながる思索の旅。



東大教授、 若年性アルツハイマーになる

著：若井克子
発行：講談社
定価：1540 円（本体 1400 円＋税 10%）

元脳外科医で、東大の教授だった夫が若年性認知症になった。長い苦悩を経て病を受け入れ、新たな道へ踏み出した夫婦の軌跡を、妻が克明に描く。妻には、地位も知識も言葉さえも失うことにより、夫は「あるがまま」を得て、人生の本質に触れたように感じられた。同じ病に苦しむ人たちの希望となる書。

